

加西市未来の学校構想について



中右 憲利 議員
(令和新風加西)



問 2月7日の加西市未来の学校構想検討委員会の資料に、小規模小学校のデメリットとして、コミュニケーション能力の不足やソーシャルスキルが育たないとあったが、教育長の認識は。

答 (教育長) 私も小規模小学校の出身ですが、そのようなデメリットを感じたことは一度もありません。むしろ小規模だからこそ発表の機会等が多く、コミュニケーションを醸成する場が多かったと思います。また、小規模小学校の方が国語、算数ともに学

力が高いという研究発表もあります。加西市は地域に根差した教育を大切にして成果を上げてきました。令和3年度からSTEAM教育を導入し、各小学校の風土や歴史などに目を向け、「郷土を愛して豊かに未来を拓く」次世代型人材を育てようと努力しています。

問 学園構想について。

答 学園構想とは中学校区内での小・小連携の発展型です。教職員の検討会では、合同の行事や授業、体験活動により子供たちはワクワクするような体験ができるといった意見や、ICTを活用した授業のサポート教員や専門スタッフ等を危惧する意見、また、再編統合を行い、リアルな触れ合いや対面授業がいいのではないかと、という意見もありました。

問 地域に小学校がなくなれば校区のまとまりやつながりがなくなり、地域の活力の源、心のふるさとがなくなるように思う。小学校に関しては地域・保護者の意見をよく聞いていただきたと思うが教育長の考えは。

答 (教育長) 市長の施政方針にあるように、子育てに優しいまちづくりを推進し、子育てと教育の地として加西市を選んでもらえるよう努力します。また、ふるさととは子供の身の丈の日常に息づいており、それを大切にすることが教育の使命の一つだと思っています。少子化による教職員の負担感等に寄り添いながら、学校の問題を各校区の地域の皆さんと教師が全て自分事として考えていくことにより、ふるさとを愛して誇りに思える教育環境整備に努めたいと思っています。

障がい者福祉について



深田 照明 議員
(21政会・加西ともて育つ会)



問 障がい児・者の夜間・休日預かり施設の市内増設計画は進んでいますか。

答 市内の短期入所施設の定員は3事業所で24名ですが、週末はほぼ満員で保護者が冠婚葬祭や急用時などに預けることが難しく、市外の施設を利用されている方も多い状況です。昨年、社会福祉協議会に施設整備の検討を依頼し、先日提案を頂いたところです。今後、場所やスタッフの確保、採算性など多くの課題について、障害者自立支援協議会などで協議

を進めていく予定です。

問 B型就労継続支援事業所利用者の工賃アップの取り組みは怎么样了。

答 B型事業所は、利用者のペースに合わせて柔軟に通所や作業ができることも特徴で、仕事としての工賃向上よりも居場所としての役割を大切にされている事業所も多く、工賃は各事業所により差があります。国や県は事業所に対し、企業との連携で作業量を増やす経営力の育成強化や専門家による技術・経営指導など工賃向上の支援事業を行っています。市においては、市役所内の郵便配達やメモ用紙・リサイクル封筒作りなどの業務提供、また昼休みに野菜や物品販売などの活動の場を提供するなど、工賃向上への支援を続けています。

問 障がい者福祉向上に対する市長の思いと方針について。

答 (市長) 障がい者福祉団体との懇談会では、一方的に要望を聞くだけではなく、加西市の福祉施策をどのように進めていくのかについて話し合う場としています。市民の生活を守ることが市の役割であり、中でも一番困っておられる方々に手を差し伸べることが、全ての市民の暮らしを豊かにすることにつながると考え、今後ともしっかりと福祉向上に取り組めます。

■その他の質問項目

- ・旧南部学校給食センター跡地の有効活用について
- ・住宅火災警報器設置推進・点検促進の取り組みについて